



SSKP

万葉の里

通巻 069号
総 括 号

編 集

〒185-0024

国分寺市泉町2-3-8

社会福祉法人万葉の里

Tel : 042-321-1212

Fax : 042-321-1207

<http://manyounosato.or.jp>



↑↑↑↑↑↑↑↑↑↑
QRコードを読み取っていただくと、万葉の里ホームページがご覧いただけます！

障害のある方の新型コロナウイルス

感染症対策についての一考

理事長 古橋耕二郎

令和2年が明け、WHOが緊急事態宣言に続き、パンデミック(世界的大流行)を宣言し、新型コロナウイルスの感染者が世界的に増加しました。国内でも、政府から感染症対策が次々と打ち出されました。改めてこれらの政策等を整理しておきたいと思います。

まず初めに、「社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について」が出されました。社会福祉施設等において新型コロナウイルス感染が疑われる者が発生した場合の対応について保健所の指示に従うとあり、別紙に、濃厚接触が疑われる利用者・職員の特定についての実施項目が明示されました。

次に、政府は、「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、翌々日「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」(以下、基本方針)を示しました。国民の生

命を守るためには、感染者数を抑えること及び医療提供体制や社会機能を維持することが重要であるとし、新型コロナウイルス感染症対策本部(以下、政府対策本部)は、緊急事態宣言を行いました。国の基本方針(別添)でも、「緊急事態宣言時に事業の継続が求められる事業者に対して、高齢者、障害者など特に支援が必要な方々の居住や支援に関するすべての関係者の事業継続を要請する」とあります。つまり、生活支援関係事業者は、サービスを含む支援が必要な方の保護を継続することを国から求められたのです。

この時、障害のある方々の医療体制や福祉施設へのバックアップは全く不透明でした。私が特に心配したのは、重度の知的障害の方への医療体制でした。

さらに、「障害者施設における新型コロナウイルス感染症発生時の具体的な対応について」では、高齢者や基礎疾患を有する者など以外の方で、症状がない又は医学的に症状が軽い方は、入院しない

場合があり、障害者支援施設を利用する障害者についても、考え方は同じでありました。必要な準備や感染症対策を行ったうえで、施設内で療養することも考えられるとし、施設内での療養を行うこととなる場合の具体的な対応が示されています。併せて、「事務連絡に関するQ&A(グループホーム関係)」も出されました。

グループホームは、入所施設と違って医師・看護師の常駐はありません。生活の場であるグループホームは利用者にとっての家なのです。もし、感染者が出た場合、感染者と非感染者を分けるゾーニングを行いたくても行える場所さえないのです。グループホームに感染した入居者が留め置かれ、クラスターが発生する等、利用者にとって多様な感染リスクを負わせることにならないか考えると、やはり感染が分かれば一刻も早く入院治療をしてもらいたいと思います。

これら政府の対策を追って、私は障害のある方に対して適切な入院・医療の提供は如何にあるべき

かを考えています。

しかし、誰からも確実な解答が得られない厳しい状況下で事業継続を迫られているようにも感じています。その一方で、障害のある方の日々の暮らしは今日も続いています。感染症と背中あわせのなか、安全・安心なサービスをどのように提供するのか、その正解が見えないなかで検討を繰り返しています。きっとこれは、多くの事業所の方が抱えておられる不安、悩みであると思います。私は、どんな環境でも利用者の生命と安全を守る。守らなければならぬ。と覚悟を決めました。この闘いは一人だけでは解決できるものではないと考えます。公的機関・社会福祉法人・医療機関が一丸となって知恵を出し合い、この感染症と闘うことが必要と思っています。今こそ実務者レベルの代表が結集し、国分寺市らしい新しい取り組みに挑戦していくために、当法人もその一翼を担えるよう努めてまいります。



本文の傍線部は、上記QRコードから全文(PDF版)を調べることができます。

「法人広報誌の源泉を振り返る」

事務長

坂井 泉

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対策で始まりました。万葉の里をご利用の皆さま、関係者の皆さまには、ご心配をおかけしています。今後、長い戦いが予想されるなか、障害福祉へのご理解とご協力をいただいておりますこと、この場をお借りしましてお礼を申し上げます。

今年2月、社会福祉法人万葉の里では、次年度の取り組みとして、期待と希望を込めた事業計画の一つに広報誌のリニューアルを掲げました。来年予定される新広報誌の発行を前に、『広報万葉の里』の発行がスタートした当時の想いを振り返ります。

—「初心」に込められた未来への挑戦を職員とともに紡いでいきたい。

板山賢治前理事長の想いを受けて

『広報万葉の里』について振り返りますと、平成18年1月、私の入職時まで遡ります。現在、三密を避けるための環境づくりに苦労していますが、当時は、障害者センターの1階事務所に10数名の職員だけがいる広々とした空間でした。

その事務所に毎週火曜日、板山賢治前理事長は、帽子を片手に大きな声で「お疲れさま!」、「元気かい?」と職員に労いの声をかけながら入って来られました。そのお姿を今でもはっきりと覚えています。板山前理事長は、毎回、悪戦苦闘しつつ、ドキドキしながら資料を出す私を呼ばれて、「坂井さん、君だけが分かる資料を作っても仕方がないんだよ」と話してくださいました。



定期発行を第一の目標に

そんなある時、「広報誌の定期発行は、法人を評価する点の一つに挙げられるよ。『広報万葉の里』は、不定期だね」と投げかけられ、この日から、私の広報誌の業務がスタートしました。当時、不定期で発行していたものを元に、広報誌名・縦書き・左開き・8ページ構成を守り、定期発行を第一の目標としてその役割を担ってきました。発行準備として、原稿集め・編集・印刷、発送のための三折り・封入・宛名ラベル貼り・郵便局への持込みという一連の作業を事務方総出で行いました。そのうちに、若手職員から「センターを利用される皆さまの日ごろの様子を伝えられたらいいな」、「どんな職員が働いているのか発信しては?」、と新たなアイデアが生まれるようになり、今思えば、事務方の全員で作業を担う、この繰返しがチームの結束を高めたのかもしれない。その後、広報委員会が発足し、私のもとからこの業務が少しずつ離れていきました。

万葉の里だからこそお届けできる広報誌を目指して

本記事を作成するにあたり、板山前理事長が執筆くださった『広報万葉の里』の巻頭言と社会福祉法人万葉の里10周年の冊子『ともに創る ともに生きる』を読み返しました。そこには、「初心を忘れず未来への挑戦を誓う」とあり、「初心」に込められた未来への挑戦を職員とともに紡いでいかなければならないのだと改めて思いました。

板山前理事長より命を受け、スタートした『広報万葉の里』は、あれから15年が経ち、時の流れとともに広報誌に求められるものも変わってきました。板山前理事長よりバトンを受けられた古橋理事長は、立ち止まるのではなく、挑戦すること、歩みを進めることを願い、『広報万葉の里』のリニューアルを本年度の計画に入れることにしました。

冊子を手にとっていただける皆さまに分かりやすく、また、楽しさが伝わり、万葉の里だからこそお届けできる広報誌を、新たなメンバーで伝えて欲しいと願っています。そして、板山前理事長からも大きな声で「坂井さん!」と、笑顔で合格の花丸をいただけるようになれば嬉しいです。



これまで、ご愛読ありがとうございました



『広報万葉の里』が新しい広報誌に生まれ変わります！

法人のさまざまな情報を内外に伝えてきた『広報万葉の里』は、今号で一つの区切りを迎えます。今号では、これまで中心的に作成に携わってきた職員から寄せられたメッセージをご紹介します。



広報担当を通して、法人や事業のことを考える機会、他事業のスタッフと関わる機会を多く与えられました。

私は、約7年間、『広報万葉の里』の編集に携わってきました。発行期間は、各号につき約3カ月。年4回の発行でしたので、年中広報のことを考えていたように思います。

広報委員は法人内の職員が交代しながら担い、内容の検討や原稿依頼・作成、インタビューとさまざまな形で作成にあたってきました。発送は、通所事業のご利用者に折り作業を協力いただきました。思い返してみると、多くの職員やご利用者の協力を得て、変化を遂げながら毎号発行してきたのだな、と感じています。

発行から15年の月日を経て、社会の変化とともに、広報誌が果たす役割も変わってきました。ご利用者や家族、地域との相互理解や信頼関係づくりのツールとして、この数年は、より充実した内容、分かりやすい紙面、そしてより多くの方に読んでもらうにはどうしたらよいかを模索し続けてきました。さまざまなことを考え、悩み、学ぶことが多くありました。そのような機会を与えられたことに感謝しています。原稿を依頼し、ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

『広報万葉の里』は新しく生まれ変わります。読むのが楽しみになり、万葉の里や福祉のことをもっと知りたいと思っていただける、魅力ある広報誌になるといいなと思っています。そんな思いを込めて、新委員の方々にバトンを渡します！

弾正原 あかね
(総務課)



バトンを受け取るのは私たちです！



宮澤 孝

(総務課)

私も、地域で暮らす一員であり、さまざまなサービスを使う消費者です。その視点を大切に、写真などを使いながら、カラー版で充実した誌面をお届けします。

山邊 泰子

(短期入所事業えんじゅ)

コロナ禍で地域の人々が集うことが難しい状況ですが、広報誌を通して利用者・家族・地域の皆さんに万葉の里の魅力をお伝えしてきましたと思っています。

大浦 志保

(基幹相談支援センター)

新広報誌は、年2回の発行となります。Web サイトと連動し、コンテンツに工夫を凝らし、生きた情報を分かりやすくお届けします。現在、広報誌名も皆で検討中です。どうぞお楽しみに♪

はばだけ!!サンサンゆめまつり 中止のお知らせ

いつもであれば、この時期の広報万葉の里は「はばだけ!!サンサンゆめまつり」の特集を組み、おまつりの注目ポイントや準備の様子を紹介していました。しかし、今回はみなさまに大変残念なお知らせをしなければなりません。9月18日現在、新型コロナウイルス感染症の収束には未だにいたっていません。ご利用者、ボランティア・関係機関・ご来場くださるみなさまの安全を第一に考え、今年度の「はばだけ!!サンサンゆめまつり」は中止とさせていただきます。

「はばだけ!!サンサンゆめまつり」は、国分寺市障害者センターの開所以来、17年にわたって毎年開催されてきました。多くの方々が来場くださる、国分寺市障害者センターの一大イベントです。それだけに、今回の決定は非常に残念でなりません。しかし、ご利用者やおまつりに関わってくださるみなさまの安全を第一に考えての判断でありますので、ご理解いただけると幸いです。

令和2年度の実行委員は、中止の判断をした段階で解散するのではなく、引き続き令和3年度の開催に向け、活動を継続します。新しい生活様式に準じたおまつりの内容、計画を考えていきたいと思っています。

来年みなさまと一緒に、国分寺市障害者センターにて、おまつりをもにつくり上げることができるよう、そして、一日も早く平穏な日々が戻ることを心から願っております。来年10月、みなさまにお会いできることを楽しみにしております。

はばだけ!!サンサンゆめまつり実行委員会

実行委員長 松原 真生

第三者評価受審について

令和元年度、国分寺市障害者センター（生活介護事業太陽、自立訓練事業はばたき、就労継続支援事業B型どーむ）とKOCO・ジャム（ケアホームこの葉、ケアホームひかり）を対象に第三者評価を受審いたしました。調査にご協力いただきましたご利用者のみなさまに感謝申し上げます。

結果につきましては、「とうきょう福祉ナビゲーション (www.fukunav.or.jp)」にて閲覧できますのでご覧ください。

また令和2年度は、国分寺市障害者センター（生活介護事業太陽、自立訓練事業はばたき、就労継続支援事業B型どーむ）とKOCO・ジャム（生活介護事業この里）を対象に第三者評価を受審しております。結果等につきましては受審が終了した際、改めてお知らせいたします。

「芳志」

令和2年4月1日〜令和2年8月31日

- ・大西 孝一様
- ・松村 晴美様
- ・水野 良太様
- ・匿名希望1名様

多数のボランティアの方に
ご来所いただきました。

みなさまのご芳志に、心より
感謝いたします。



編集後記

編集担当者のつぶやき

毎年、年4回発行してきた「広報万葉の里」ですが、コロナ禍の影響により、春・夏号の発行を見送りました。お知らせをしないまま発行が大変遅くなり、申し訳ございませんでした。

この約半年、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、各事業では、新しい生活様式やガイドラインにそって、活動の場所や内容の見直し・工夫をしながら事業をおこなっています。密を避けるため、障害者センターでは事務所の机の配置変更も行いました。在宅勤務やWEB会議の導入、これまで経験のなかったことがこの間ありました。いったいこの状況はいつまで続くのでしょうか：見えないウイルスに対しての緊張や不安は続いています。これまで当たり前だったことが当たり前ではなくなっている今、さまざまな可能性を模索しながら、みなさまが安心してサービスを利用できるよう今後も努めてまいります。

2、3ページにもありました通り、この紙面構成での発行は今号で最後となります。編集ソフトに苦戦しつつ、作成してきた身としてはちょっぴり寂しい気持ちもありますが、長年望んでいたカラーでの発行ができることはとても楽しみです。次の発行は2021年年明けを予定しています。新たな広報誌をどうぞ楽しみにしててください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

総務課 弾正原あかね

発行所

郵便番号一五七〇〇七二
東京都世田谷区祖師谷三十一十七

ウエルドゥーラ祖師谷二〇二号室

特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会

定価五十円